

【調査概要】

- (1) 対象学年：小学校6年生、中学校3年生 (2) 実施日 令和7年4月17日(木)
(3) 調査内容：①教科に関する調査 小学校【国語、算数、理科】 中学校【国語、数学、理科（CBTシステムによるオンライン実施）】 ※今年度、英語は実施なし（理科・英語は3年に一度程度の実施）
②質問紙調査（児童・生徒に対する調査、学校に対する調査）

調査の目的

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

学力調査結果

🔊 昨年に続き、府との差は縮まってきている！

昨年に続き、小学校国語・算数、中学校国語の平均正答率、及び小中学校のすべての教科の無解答率において、大阪府との差が一層縮まった。特に、小学校の無回答率は大阪府・全国よりも良い結果である。

🔊 国語は向上の傾向！しかし、数学に課題！

国語は小中ともに2年続けて結果は向上している。一方、中学校数学においては、対府比（正答率の府との比較）が昨年度よりも広がり、正答率や無解答率においても全国や大阪府よりも下回っており、昨年に引き続き課題である。

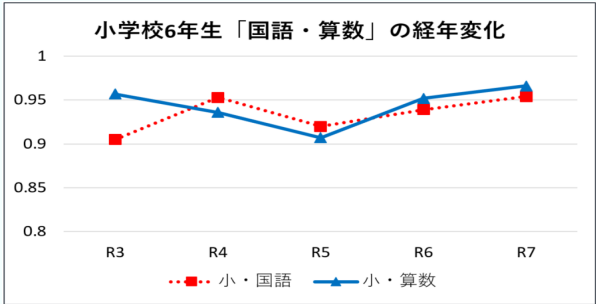
学力調査結果に関わって、各教科の状況として概ね正解できていた問題と課題の見られた問題、無回答率の高かった問題、各教科における領域と評価の観点別の正答状況など、質問紙調査結果に関わって、主な質問事項と状況、正答率やICT活用などとの関係など、より詳細の資料を別紙にて掲載しています。

小学校6年生

【平均正答率】（本市、大阪府は整数まで、全国は小数第1位までの表示）

小学校6年生	泉南市	大阪府	全国	対府比	(参考) R6 対府比
国語	62%	65%	66.8%	0.954	0.939
算数	56%	58%	58.0%	0.966	0.952
理科	52%	55%	57.1%	0.945	実施無し

【対府比の経年比較】



- ◆ 国語・算数・理科において、府・国より、正答率は低い。
- ◆ 国語・算数とも、府との差は縮まった。（R6 対府比との比較より）

※「対府比」と示しているのは、大阪府の平均正答率を1とし、大阪府と比べてどれくらいできているかを表したものです。

【無解答率】

小学校6年生	泉南市	大阪府	全国	府との差	(参考) R6 府との差
国語	2.9%	3.4%	3.3%	-0.5%	0.2%
算数	2.8%	3.7%	3.6%	-0.9%	-0.5%
理科	2.5%	3.2%	2.8%	-0.7%	実施無し

- ◆ 国語・算数・理科において、府・国より無解答が少なく、府や国よりも良い結果である。

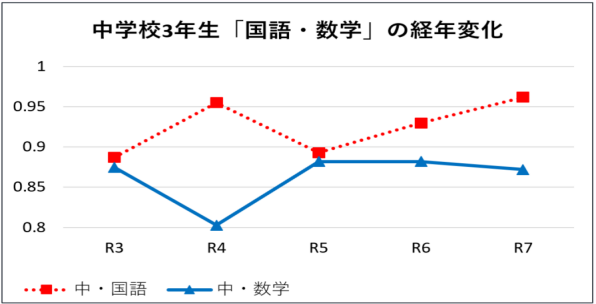
中学校3年生

【平均正答率】（本市、大阪府は整数まで、全国は小数第1位までの表示）

中学校3年生	泉南市	大阪府	全国	対府比	(参考) R6 対府比
国語	50%	52%	54.3%	0.962	0.930
数学	41%	47%	48.3%	0.872	0.882

* 理科は IRT スコアによる結果のため、標記せず

【対府比の経年比較】



- ◆ 国語・数学とも、府・国より、正答率は低い。
- ◆ 国語は、府との差は縮まった。（R6 対府比との比較より）

【無解答率】

中学校3年生	泉南市	大阪府	全国	府との差	(参考) R6 府との差
国語	7.4%	7.2%	6.7%	0.2%	0.5%
数学	13.3%	12.1%	10.6%	1.2%	3.4%

- ◆ 国語・数学とも、府・国より無解答が多いが、府との差は縮まった。

質問紙調査結果

(＊下記表は、質問事項に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合)

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R7	<u>80.7%</u>	74.8%	78.1%	<u>82.0%</u>	77.5%	79.2%
R6	76.6%	73.0%	75.8%	78.1%	75.5%	76.2%

●「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R7	<u>72.1%</u>	68.5%	68.6%	<u>71.8%</u>	63.7%	63.0%
R6	73.1%	67.8%	67.6%	68.5%	67.2%	64.8%

授業における考えの工夫・交流など、主体的・対話的で深い学びに関する項目について、昨年度に引き続き大阪府や全国よりも良い結果となった。

●「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R7	<u>96.5%</u>	95.6%	96.4%	<u>95.3%</u>	96.0%	96.6%
R6	97.0%	95.0%	95.9%	94.1%	94.6%	95.2%

●「人が困っているときは、進んで助けていますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R7	<u>93.6%</u>	92.8%	93.7%	<u>91.4%</u>	89.5%	90.9%
R6	93.0%	91.5%	92.7%	88.8%	88.9%	90.1%

社会貢献や自己の責任感など、豊かな人間性に関する項目について、肯定的回答の割合は 96.5%～91.4%と肯定的回答状況が高く、良い結果となった。

●「学校の授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」【うち、1時間以上勉強している割合】

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R7	<u>37.0%</u>	48.8%	54.0%	<u>52.9%</u>	62.3%	61.6%
R6	47.5%	47.8%	54.6%	50.6%	63.2%	64.3%

●「学校の授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」【うち、30分以上読書をしている割合】

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R7	<u>20.8%</u>	28.5%	31.1%	<u>16.3%</u>	18.6%	21.4%

●「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）」【うち、100冊以上あると答えた割合】

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R7	<u>23.4%</u>	30.1%	30.9%	<u>16.1%</u>	25.2%	27.2%
R6	23.1%	30.7%	31.9%	18.9%	26.2%	28.3%

泉南市の子どもたちは、全国や大阪府と比べて家庭学習時間が短く、今年度は小学生で下降傾向にあることは課題である。

さらに、1日当たりの読書時間や家庭の蔵書数が全国や大阪府と比べて少ない。

今年度の調査には質問項目がなかったが、昨年度の調査で本市の顕著な課題として認識されていた、家庭におけるゲームや SNS・動画視聴等に費やす時間が増加していることなどを踏まえ、放課後の過ごし方は引き続き課題であると考えます。

学力向上に向けた提案



1, 子どもの実態に即した授業改善	全国学力学習状況調査や市独自の教育検査等の結果を効果的に使い、実態に即した授業改善の推進
2, 基礎基本の定着	算数・数学のつまずきの把握と学習支援の工夫 個に応じた学習支援の工夫
3, 家庭学習時間の充実	AIドリルの活用による家庭学習や基礎学習の充実 家庭・地域とともに教育を進めるための情報発信

別紙資料

項目

- ◆令和7年度 全国学力・学習状況調査における
成果と課題の見られた具体的な問題 P2～20
- ◆各教科における領域と評価の観点別の正答状況 . . . P21～22
- ◆質問紙調査から 主な質問事項と状況 P23～27
- ◆同一集団の3年後の状況 P28

◆令和7年度 全国学力・学習状況調査における成果と課題 の見られた具体的な問題

小学校の結果概要【国語】

【成果の見られた設問】

3－（本市正答率 78.6％ 大阪府正答率 80.3％ 対府比 0.979）

（趣旨）時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる。

3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで「資料1」を読みました。そして、「資料1」を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。「資料1」をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料1】

（文化庁国語課「文化庁国語課の動かしやすい日本語」による。）

（文化庁国語課「文化庁国語課の動かしやすい日本語」による。）

※1「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。
※2「短語」……………よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。
※3「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

— 木村さんは、「資料1」を読み、次の「木村さんの経験」を思い出しました。木村さんが経験を通して気づいたこととして最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【木村さんの経験】

ひいおばあちゃん「かわやはどこ。」と聞いたことがあったなあ。
ぼくが「かわやって何。」とたずねたら、お父さんは「便所のことだよ。」と教えてくれたなあ。ぼくはトイレって言うんだけだな。



木村さん

1 時代とともに言葉の意味が変わること。

2 時代とともにものの使い方が変わること。

3 世代によってものの呼び方がちがうこと。

4 世代によって言葉の使い方は変わらないこと。

■学習指導要領における内容：

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

■評価の観点：知識・技能

【本市児童の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3ー	【資料 1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	12.9	5.6	80.4	0.5					0.0	0.7
		9.6	6.7	80.3	1.7					0.2	1.5
		9.5	6.3	81.2	1.6					0.1	1.3
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3	◎	3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

■解答類型について

- 時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くためには、自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることや、それぞれの世代には特有の言葉遣いがあることに気づき、自分たちの言葉への関心を深めることが重要である。ここでは、木村さんが、経験を通して、世代によってもものの呼び方が違うことに気付いたと捉えることが求められる。
- 【解答類型 1】は、木村さんが、時代とともに言葉の意味が変わることに気付いたと捉えており、世代によってもものの呼び方が違うことに気付いたと捉えることができていると考えられる。
- 【解答類型 2】は、木村さんが、時代とともにものの使い方が変わることに関心を持ち、世代によってもものの呼び方が違うことに気付いたと捉えることができていると考えられる。
- 【解答類型 3】は、木村さんが、世代によってもものの呼び方が違うことに気付いたと捉えることができていると考えられる。
- 【解答類型 4】は、木村さんが、世代によって言葉の使い方は変わらないことに気付いたと捉えており、世代によってもものの呼び方が違うことに気付いたと捉えることができていると考えられる。

【課題の見られた設問】

3三(1) (本市正答率 34.3% 大阪府正答率 40.7% 対府比 0.842)

(趣旨) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるか。

(1)

【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

4 【資料1】の部④
3 【資料1】の部③
2 【資料1】の部②
1 【資料1】の部①

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましよう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料(【資料2】、【資料3】)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料4】

私は、この資料(【資料4】)を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいが分るでしよ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

言葉の変化については、いろいろな考え方があるんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。

「雨模様」の意味のとらえ方

世代	雨が降りそうな様子 (%)	小雨が降ったりやんだりしている様子 (%)
16-19さい	50.4	31.9
20代	43.5	42.9
30代	53.7	34.1
40代	53.9	33.4
50代	61.2	26.1
60代	52.6	33.6
70さい以上	46.2	39.8

(文化庁『令和4年度国語に関する世論調査』による。)

木村さん 田中さん 木村さん 田中さん 木村さん

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

■評価の観点：思考・判断・表現

【本市児童の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3三（1）	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	8.6	36.1	34.3	17.8					0.0	3.2
		5.7	33.2	40.7	16.6					0.2	3.5
		5.2	33.9	40.8	16.4					0.2	3.4

1		1 と解答しているもの
2		2 と解答しているもの
3	◎	3 と解答しているもの
4		4 と解答しているもの
9 9		上記以外の解答
0		無解答

■解答類型について

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが大切である。ここでは、田中さんが【資料4】を読み、「人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困る」と考えている。田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることが求められる。
- 【解答類型1】は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「この本を読むとお気づきになると思います」と書かれていることを結び付けていると捉えており、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができていないと考えられる。
- 【解答類型2】は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に『『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめています。』と書かれていることを結び付けていると捉えており、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができていないと考えられる。
- 【解答類型3】は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができていないと考えられる。
- 【解答類型4】は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に『『言葉は生きている』とも言われます。』と書かれていることを結び付けていると捉えており、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができていないと考えられる。

<考えられる子どもの姿>

- ・ 田中さんの考えを資料1の②と解答している児童が36.1%。④と解答している児童が17.8%。
→ 資料4の田中さんの言葉の「人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、」と言っている言葉をふまえて、資料1の②「本来の意味とは違う使い方」と結び付けたと考えられる。

→当てはまる内容（目的）に応じて、示された文章の中から結び付けるなどして必要な情報を見つけることができていないと考えられる。

<指導のポイント>

- ・「必要な情報をみつける」ために、文章の中から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したりする力を身につける。
- ・必要な情報を見つけるためには、文章と図表や文章などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりする力を身につける。
- ・文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるよう指導することが大切である。

小学校の結果概要【算数】

【成果の見られた設問】

4 (1) (本市正答率 81.7% 大阪府正答率 82.1% 対府比 0.995)

(趣旨) 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる。

4

保健委員のあさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。



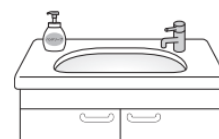
ハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

1 プッシュとは、容器の先たんを下までしっかり1回おすことです。

1 プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることとします。



(1) まず、あさひさんは、保健室にある新品のハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを考えています。



保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL入っています。新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mLの他に何がわかればよいですか。

下の ア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- | | | |
|---|-----------------------|------|
| ア | 1 プッシュ分のハンドソープの液体の量 | 3 mL |
| イ | 1 プッシュするときにおす長さ | 2 cm |
| ウ | あさひさんが1日にプッシュする回数の平均 | 8 回 |
| エ | あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均 | 60 秒 |

■学習指導要領における領域・内容

〔第4学年〕 C 変化と関係

(1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。

■評価の観点：思考・判断・表現

【本市児童の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	81.7	6.3	6.8	0.9					2.5	1.8
		82.1	3.9	7.7	1.7					2.0	2.6
		82.8	3.8	7.6	1.4					1.8	2.6
1	◎	ア と解答しているもの									
2		イ と解答しているもの									
3		ウ と解答しているもの									
4		エ と解答しているもの									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

■解答類型について

- 日常生活において、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して、問題解決の見通しをもつことができるようにすることが大切である。本設問では、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかを問うている。ここでは、新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、ハンドソープの液体の量のほかに、どのような数量が必要であるのかを判断することが必要である。
- 【解答類型 1】は、新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、ハンドソープの液体の量のほかに、1 プッシュ分のハンドソープの液体の量が必要であると判断できている。
- 【解答類型 2】は、新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、ハンドソープの液体の量のほかに、1 プッシュするときにおす長さが必要であると判断していると考えられる。
- 【解答類型 3】は、新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、ハンドソープの液体の量のほかに、あさひさんが 1 日にプッシュする回数の平均が必要であると判断していると考えられる。
- 【解答類型 4】は、新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、ハンドソープの液体の量のほかに、あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均が必要であると判断していると考えられる。

【課題の見られた設問】

3 (2) (本市正答率 21.7% 大阪府正答率 23.5% 対府比 0.923)

(趣旨) 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

■ 学習指導要領における領域・内容

〔第 5 学年〕 A 数と計算

(5) 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。

■ 評価の観点：思考・判断・表現

【本市児童の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3 (2)	3／4＋2／3について、共通する単位分数と、3／4と2／3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	21.7	0.5	0.2	7.0	1.6	32.4	3.8		22.4	10.4
		23.5	0.3	0.5	5.4	1.0	27.7	4.4		21.9	15.4
		23.0	0.3	0.5	6.1	1.0	26.2	4.4		22.8	15.7
(正答の条件) 次の①、②、③の全てを書いている。 ① 3／4と2／3に共通する単位分数が、1／12であることを表す数や言葉（分母が12の倍数の単位分数を含む） ② 3／4が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉 ③ 2／3が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉											
1	◎	①、②、③の全てを書いているもの									
2		②、③を書いているもの									
3		①、②を書いているもの ①、③を書いているもの									
4		①を書いているもの									
5		②を書いているもの ③を書いているもの									
6		通分について書いているもの									
7		3／4は1／4の3個分であることと、2／3は1／3の2個分であることの両方、又はどちらか一方を書いているもの									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

■解答類型について

○ 分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位 分数を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切である。本設問では、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通 する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかを問うている。ここでは、例えば、3/4 と 2/3 について、共通する単位分数として 1/12 を見だし、3/4 は 9/12 であることから 1/12 の 9 個分、2/3 は 8/12 であることから 1/12 の 8 個分ということをつまえることが必要である。その際、3/4 と 2/3 について、共通する単位分数の幾つ分かを記述する上で、次の二つの事柄を書くこと が必要である。

- ・ 3/4 と 2/3 に共通する単位分数が 1/12 であること（分母が 12 の倍数の単位分数を含む）
- ・ 3/4 と 2/3 がそれぞれ共通する単位分数の幾つ分か。

○ 【解答類型 1】は、共通する単位分数として 1/12 を見だし、3/4 は 1/12 の 9 個分、2/3 は 1/12 の 8 個分であることを記述できている。

○ 【解答類型 2】は、3/4 と 2/3 がそれぞれ共通する単位分数の幾つ分かについて、「幾つ分か」は記述できているが、「共通する単位分数が 1/12 であること」は記述できていない。具体的な例としては、以下のようなものが想定される。

(例) 3/4 は 9 個分、2/3 は 8 個分です。

○ 【解答類型 3】は、共通する単位分数が 1/12 であることは記述できているが、3/4 が共通する単位分数の幾つ分か、2/3 が共通する単位分数の幾つ分かのどちらか一方については記述できていない。

○ 【解答類型 4】は、共通する単位分数が 1/12 であることは記述できているが、3/4 と 2/3 がそれぞれ共通する単位分数の幾つ分かは記述できていない。

○ 【解答類型 5】は、共通する単位分数が 1/12 であることは記述できておらず、3/4 と 2/3 のどちらか一方は、共通する単位分数の幾つ分かについて、「幾つ分か」は記述できているが、もう一方は、記

述できていない。

○【解答類型 6】は、通分について記述している。

○【解答類型 7】は、 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分であることを記述している。

<考えられる子どもの姿>

- ・通分について記述している解答が 32.4%。

- ・4 分の 3 と 3 分の 2 に共通する単位分数が、1 2 分の 1、4 分の 3・3 分の 2 の共通する単位分数のいくつ分かを表す数や言葉が書かれていない。

→分母の違う足し算の仕方の概念が理解していないと考えられる。

→問が 3 つあることを理解できていないと考えられる。

→問の「もとにする数を同じ数にする」という言葉が、が共通する単位分数が 1 2 分の 1 となるということを理解できていないと考えられる。

→通分するという記述のみと考えられる。

<指導のポイント>

- ・ピザやケーキなどの円形の物を使って、分けることのイメージを定着させると理解が深まる。

- ・分母が同じでないと計算できないということを理解させる。

- ・通分をする考え方は、分母と分子に同じ数をかけても大きさは変わらないということを指導する。

- ・通分する際、分母の最小公倍数を見つけるほうが計算しやすいことを指導する。

中学校の結果概要【国語】

【成果のみられた設問】

3 二（本市正答率 89.6% 大阪府正答率 88.6% 対府比 1.011）

（趣旨）文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができかどうかをみる。

3 次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「①榎木の実」、「②釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

二「二人の兄弟」は、この物語の中でどのような性格の人物として描かれていますか。

「①榎木の実」と「②釣の話」を通して分かる性格を、それぞれ書きなさい

■学習指導要領における内容：

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示の関係や登場人物の設定の仕方 を捉えること。
《構造と内容の把握》

■評価の観点：思考・判断・表現

【本市児童の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3 二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	89.6	0.9	0.9						2.4	6.2
		88.6	1.4	1.3						3.5	5.2
		89.9	1.4	1.4						3.3	4.0

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① 兄の欄に「気が長い」のように解答している。
② 弟の欄に「気が短い」のように解答している。

1	◎	条件①、②を満たして解答しているもの
2		条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの
3		条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの
9 9		上記以外の解答
0		無解答

■解答類型について

○【解答類型1】は、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができている。「①榎木の実」と「②釣の話」を通して、「兄」が「気が長い」性格、「弟」が「気が短い」性格の人物として設定されていることを捉えることができている。

○【解答類型 2、3】は、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることに課題がある。

- ・【解答類型 2】は、「兄は弟と違って気長な子供でしたから」や「兄はゆっくり構えて 釣っていたものですから」などの叙述から、「兄」が「気が長い」性格の人物として設定 されていることを捉えることはできているが、「弟」がどのような性格の人物として設定 されているかを捉えることはできていない。
- ・【解答類型 3】は、「弟は気の短い子供で」や「ほんとに釣れるまで待っていただけませんでした」などの叙述から、「弟」が「気が短い」性格の人物として設定されていることを捉えることはできているが、「兄」がどのような性格の人物として設定されているかを 捉えることはできていない。

【課題のみられた設問】

3 四（泉南市正答率 13.7% 大阪府正答率 15.6% 対府比 0.878）

（趣旨）文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

四 で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話がかかれていいます。あとに続く話は、「①榎木の実」にはありますが、「②釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。 《精査・解釈》

■評価の観点：思考・判断・表現

【本市児童の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く	13.7	0.0	37.2						21.5	27.7
		15.6	0.1	33.1						20.6	30.6
		17.1	0.1	34.2						20.5	28.1
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① どのような効果があるかを書いている。 ② ①のように考えた理由を、「破線囲みの部分のような『あとに続く話』が、『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。 ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。											
1	◎	条件①、②、③を満たして解答しているもの									
2		条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの									
3		条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

■解答類型について

- 【解答類型1】は、文章の展開について、根拠を明確にして考えることができている。「二人の兄弟」という作品は、「①榎木の実」には兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話がかかれていいるが、「②釣の話」には書かれていない。このような展開になっていることによってどのような効果があると考えられるか、自分の考えを具体的に書くことができている。また、そのように考えた理由を、文章の内容を適切に取り上げて書くことができている。
- 【解答類型2、3】は、文章の展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

- ・【解答類型2】は、本問で着目している展開について、その効果を書くことはできているが、物語の内容を適切に取り上げて書くことができていない。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)「①榎木の実」で、兄弟は、好い実を拾うにはタイミングが大切だと知ったはずなのに、「②釣の話」では失敗して終わっているのに、人の性格はなかなか変わらないということを強調する効果がある。どちらの話でも、兄弟は目的を達成することができなかった。

- ・【解答類型3】は、文章の展開の効果について書くことができています。しかし、理由を書く際、物語の内容を取り上げているものの、本問で着目している展開を踏まえて書くことができていない。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)「①榎木の実」に榎木の木が出てきて、「②釣の話」に胡桃の木が出てくることにより、読者に豊かな自然を思い浮かべさせる効果がある。

<考えられる子どもの姿>

「どのような効果があるか」という問いに加え、条件設定の理由も同時に問われているため、生徒にとっては解答の仕方が非常に難しかったと考えられる。しかしながら、無回答率は 27.7%と、全国平均および大阪府平均よりも低く、さらに正答の条件をすべて満たしたわけではないものの、21.5%の生徒が何らかの形で解答しており、こちらも全国・府の平均を上回っている。こうした結果から、生徒たちがあきらめることなく、懸命に問題に取り組んだ姿がうかがえる。

<指導のポイント>

人は、立場や状況によって物事の捉え方が異なる。日々の読解活動や制作活動において、「〇〇の立場になって読んでみよう」「〇〇になったつもりで作ってみよう」といった視点の切り替えは、学びを深めるうえで効果的な手立てとなる。加えて、その過程で「自分はなぜそう考えたのか」「どのような意図で制作したのか」といった自らの思考を言語化し、他者からの評価やフィードバックを受けるといった協働的な学びを取り入れることで、理解がより深まる。こうした学びの積み重ねによって、今回のような複雑な設問に対しても、解答のイメージを具体的に持てる生徒が増えていくのではないかと考える。

中学校の結果概要【数学】

【成果のみられた設問】

7 (1) (本市正答率 71.9% 大阪府正答率 75.9% 対府比 0.947)

(趣旨) 必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる。

- 7 優斗さんと芽依さんは、地域のイベントで「じゃんけんカードゲーム」を行うことを計画しました。そこで、表に「グー」、「チョキ」、「パー」の絵がかかれたカードをそれぞれ同じ枚数ずつたくさん準備しました。これらのカードを裏にすると、表の「グー」、「チョキ」、「パー」の絵はわかりません。
- 二人は、これらのカードを使ったゲームの進め方を、次のように考えました。

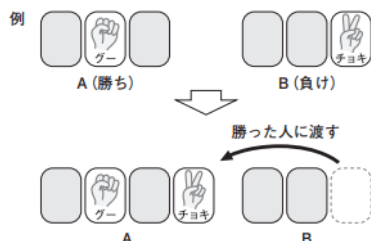


進め方

- ① 準備したすべてのカードを裏にしてよく混ぜ、裏にしたまま、対戦するAとBの手元にそれぞれ3枚ずつ並べる。



- ② AとBは、手元のカードのいずれか1枚を同時に表にする。じゃんけんのルールをもとに勝敗を決め、負けた人は勝った人に表にしたカードを渡す。これを1回目とする。



ただし、あいこのときはカードの受け渡しをせず、1回目を終了する。

- ③ 1回目終了後、自分の手元のカードを、すべて裏にしてよく混ぜてから並べ、②と同様に2回目を行う。
- ④ 2回目終了後、手元のカードの枚数に応じて景品をもらう。

優斗さんと芽依さんは、前ページの進め方でゲームを行うときのAとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。ただし、手元のカードのいずれか1枚を表にするとき、どのカードを表にすることも同様に確からしいものとします。

- (1) 優斗さんと芽依さんは、前ページの進め方で、右の図のようにAとBのそれぞれの手元のカードが同じ絵のカードになる場合があることに気づきました。



Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」で1回目を行うとき、次のことがいえます。

1回目は必ずAが勝つから、1回目にAが勝つ確率は である。

上の に当てはまる数を書きなさい。

■ 学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 D データの活用

(2) 不確定な事象の起こりやすさについて、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解すること。

■ 評価の観点：知識・技能

【本市生徒の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	71.9	7.5	5.5	2.4					8.4	4.4
		75.9	5.2	4.7	2.8					7.0	4.4
		77.4	4.5	4.6	3.1					7.3	3.2
1	◎	1 と解答しているもの (数学的に同値と判断できるものを含む。以下同様)									
2		1 0 0 と解答しているもの									
3		1 / 3 と解答しているもの									
4		1 / 2 と解答しているもの									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

■解答類型について

- 【解答類型 1】は、必ず起こる事柄の確率について理解している。
- 【解答類型 2】は、必ず起こる事柄の確率を 1 0 0 と捉えていると考えられる。
- 【解答類型 3】は、じゃんけんの結果についての「勝ち」、「負け」、「あいこ」の3通り、カードの表の絵の「グー」、「チョキ」、「パー」の3種類、手元のカードが3枚など、「3」に着目して、1回目にAが勝つ確率は $1/3$ と求めたと考えられる。
- 【解答類型 4】は、じゃんけんの勝敗についての「勝ち」、「負け」の2通りなど、「2」に着目して、1回目にAが勝つ確率は $1/2$ と求めたと考えられる。

【課題のみられた設問】

6 (2) (本市正答率 15.8% 大阪府正答率 24.5% 対府比 0.645)

(趣旨) 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、 である。」という形で書きなさい。

■ 学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 A 数と式

(1) 文字を用いた式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。

■ 評価の観点：思考・判断・表現

【本市生徒の解答状況】

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
6 (2)	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	7.3	1.3	6.8	0.4	22.4	12.7			21.3	27.7
		11.6	1.4	10.4	1.1	16.3	10.1			20.3	28.8
		12.3	1.4	10.9	1.1	16.3	11.5			21.7	24.9
(正答の条件) 「○○は、◇◇である。」という形で、次の(a)、(b)について記述しているもの。 (a) ○○が、「連続する2つの3の倍数の和」である。 (b) ◇◇が、「奇数」である。											
1	◎	(a)、(b)について記述しているもの									
2	○	(a)についての記述が十分でなく、(b)について記述しているもの。又は、(b)のみを記述しているもの									
3	◎	(a)について記述し、(b)以外で2(3n+1)+1から読み取れる事柄を記述しているもの									
4	○	上記3について、(a)についての記述が十分でないもの。又は、(a)についての記述がないもの									
5		上記1～4以外で、2(3n+1)+1から読み取れないが、連続する二つの3の倍数の和について成り立つ事柄を記述しているもの ((a)についての記述が十分でないものや、(a)についての記述がないものを含む)									
6		成り立たない事柄を記述しているもの ((a)についての記述が十分でないものや、(a)についての記述がないものを含む)									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

■解答類型について

- 本設問では、数に関する事象を考察する場面において、見いだした事実を説明することを求めている。「連続する2つの3の倍数の和」がどんな数であるかを、文字を用いた式の意味を読み取って説明するものである。太一さんの式の変形において、 $6n+3$ を $2(3n+1)+1$ と変形したことから、「連続する2つの3の倍数の和は、奇数である。」のように記述することを求めた。
- 【解答類型1】は、 $6n+3$ を式変形して得られた $2(3n+1)+1$ から読み取れる事柄について、「連続する2つの3の倍数の和は、奇数である。」のように記述している。
- 【解答類型2】は、 $6n+3$ を式変形して得られた $2(3n+1)+1$ から読み取れる事柄について、「連続する2つの3の倍数の和は」についての記述が十分でないが、「奇数である」ことについて記述している。又は、「奇数である」ことのみを記述している。
- 【解答類型3】は、解答類型1以外で $2(3n+1)+1$ から読み取れる事柄について、「連続する2つの3の倍数の和は、 $\diamond\diamond$ である。」のように記述している。
- 【解答類型4】は、解答類型2以外で $2(3n+1)+1$ から読み取れる事柄について、「連続する2つの3の倍数の和は」についての記述が十分でないが、「 $\diamond\diamond$ である」について記述している。又は、「 $\diamond\diamond$ である」のみを記述している。
- 【解答類型5】は、連続する二つの3の倍数の和について、成り立つ事柄を記述しているが、 $2(3n+1)+1$ から読み取れる事柄を記述していない。具体的な例としては、以下のようなものが想定される。
(例) ・ 連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である。
- 【解答類型6】は、連続する二つの3の倍数の和について、成り立たない事柄を記述している。具体的な例としては、以下のようなものが想定される。
(例) ・ 連続する2つの3の倍数の和は、偶数である。

<考えられる子どもの姿>

- ・ $3n+3n+3$ という式は、 $6n+3$ が正解ではないのか。なぜ $2(3n+1)+1$ という形に変形する必要があるのか、その意図が理解できず、混乱してしまった生徒がいたのではないかと考えられる。
- ・ 数学科における中学2年生の「数と式」の証明問題は、具体的な数の扱いから抽象的な表現へと移行する、特に変化の大きい学習内容であり、多くの生徒にとって難しさを感じやすい単元である。
「連続する2つの3の倍数」と聞けば、「3と6」や「6と9」など、具体的な数のイメージを持つことができた生徒は多かったと考えられる。それが「9」「15」といった奇数になることについても理解できていたとは思われるが、抽象化された式で表される段階に入ると、たとえ具体的なイメージを持っていたとしても、それを式として表現する技能とは結び付けることができず、混乱してしまった生徒も少なくなかったと考えられる。

<指導のポイント>

- ・ 中学2年生の「数と式」における証明問題は、具体的な数から抽象的な式への移行が求められる

点で、学習内容の中でも特に変化が大きく、生徒にとって困難を感じやすい単元である。

しかしながら、証明における基本的な手法、例えば、偶数を「 $2()$ 」、奇数を「 $2() + 1$ 」と表すといった基礎的な表記方法については、確実に定着させたい。

◆各教科における領域と評価の観点別の正答状況

* 「府比」と示しているのは、大阪府の平均正答率を1とし、大阪府と比べて本市がどれくらいできているかの割合を表している

小学校国語	学習指導要領の内容		平均正答率 (%)			府比
			泉南市	大阪府	全国	
	領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.5	77.0	76.9	0.95
		情報の扱い方に関する事項	57.6	61.5	63.1	0.94
		我が国の言語文化に関する事項	80.4	80.3	81.2	1.00
		話すこと・聞くこと	62.3	65.0	66.3	0.96
		書くこと	63.4	67.1	69.5	0.94
		読むこと	52.7	56.1	57.5	0.94
	評価の観点	知識・技能	42.8	47.8	48.1	0.90
		思考・判断・表現	51.4	53.2	55.3	0.97

小学校算数	学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率 (%)			府比
			泉南市	大阪府	全国	
	領域	数と計算	61.2	62.4	62.3	0.98
		図形	55.3	55.7	56.2	0.99
		測定	52.3	53.8	54.8	0.97
		変化と関係	56.3	57.3	57.5	0.98
		データの活用	60.4	61.5	62.6	0.98
	評価の観点	知識・技能	63.4	65.1	65.5	0.97
		思考・判断・表現	47.3	47.9	48.3	0.99

小学校理科	学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率 (%)			府比
			泉南市	大阪府	全国	
	領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.2	43.9	46.7	0.94
		「粒子」を柱とする領域	46.7	49.4	51.4	0.95
		「生命」を柱とする領域	45.8	49.0	52.0	0.93
		「地球」を柱とする領域	60.8	63.9	66.7	0.95
	評価の観点	知識・技能	49.2	52.7	55.3	0.93
		思考・判断・表現	53.9	56.2	58.7	0.96

	学習指導要領の内容		平均正答率 (%)			府比
			泉南市	大阪府	全国	
中学校 国語	領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	42.8	47.8	48.1	0.89
		話すこと・聞くこと	48.3	50.7	53.2	0.91
		書くこと	48.5	50.5	52.8	0.92
		読むこと	60.3	61.2	62.3	0.97
	評価の 観点	知識・技能	42.8	47.8	48.1	0.89
		思考・判断・表現	51.4	53.2	55.3	0.93
	学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率 (%)			府比
			泉南市	大阪府	全国	
中学校 数学	領域	数と式	36.2	42.4	43.5	0.83
		図形	41.5	46.2	46.5	0.89
		関数	40.4	46.3	48.2	0.84
		データの活用	49.1	54.9	58.6	0.84
	評価の 観点	知識・技能	47.9	52.9	54.4	0.88
		思考・判断・表現	30.7	37.4	39.1	0.79

中学校理科は、CBT システムによるオンライン実施であり、IRT スコアによる結果のため、標記せず

◆質問紙調査から 主な質問事項と状況

* 主な質問事項を抜粋しています。

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
朝食を毎日食べていますか	89.0	92.6	93.7	87.5	88.9	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	79.8	82.8	81.9	78.1	80.2	81.0
自分には、よいところがあると思いますか	84.1	86.5	86.9	85.6	84.0	86.2
将来の夢や目標を持っていますか	80.3	82.2	83.1	63.8	65.0	67.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.5	95.6	96.4	95.3	96.0	96.6
人が困っているときは、進んで助けていますか	93.6	92.8	93.7	91.4	89.5	90.9
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	76.3	78.4	81.3	69.3	71.5	75.3
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.6	96.5	97.2	97.2	95.1	95.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	88.5	85.1	86.5	83.7	84.3	86.1
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	73.4	75.3	70.6	76.0	74.7	73.2
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.2	93.2	92.2	92.0	92.1	92.2
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか	92.7	88.0	87.4	83.4	83.4	83.8
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	84.9	82.8	83.3	86.0	80.3	84.3
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.3	78.7	80.3	84.6	76.6	77.7
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	72.1	68.5	68.6	71.8	63.7	63.0
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	80.7	74.8	78.1	82.0	77.5	79.2
* 授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか(週 1 回以上)	84.5	82.1	89.7	87.4	87.1	92.2
国語の勉強は好きですか	55.5	56.6	58.3	56.0	56.3	57.9
国語の授業の内容はよく分かりますか	83.2	83.9	82.8	82.6	78.3	77.0
算数・数学の勉強は好きですか	51.1	56.0	57.9	54.7	53.1	53.8
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	77.9	79.8	78.3	75.1	74.8	70.3

▶ 質問事項に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

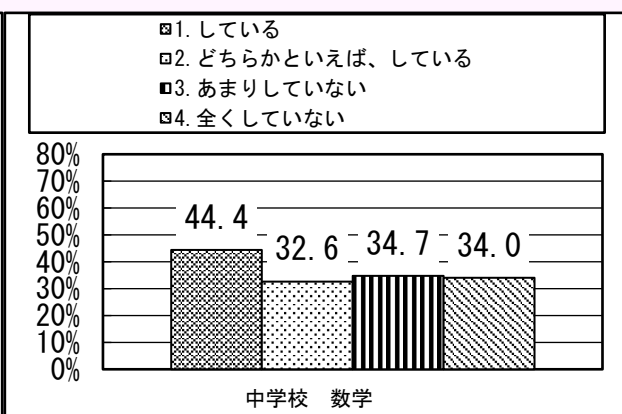
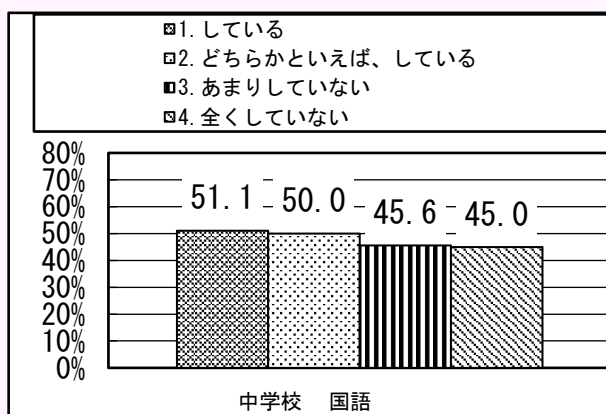
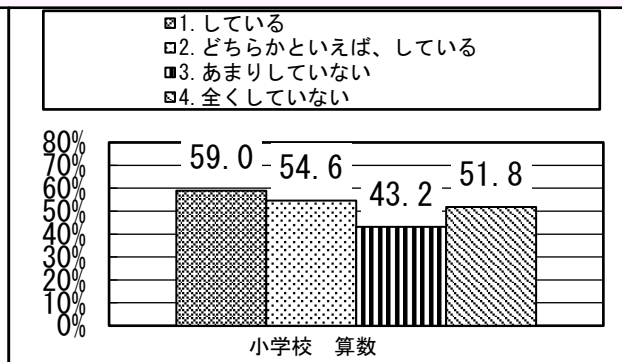
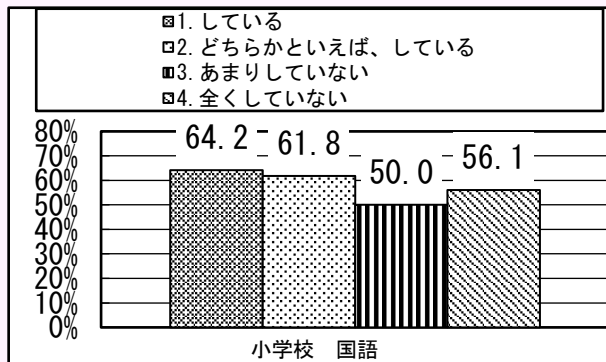
▶ * の項目は、「週 1 回以上」「週 3 回以上」「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合(%)

▶ □ 囲みの数値は府と全国を上回っているもの、波線(網掛)の数値は、府と全国を下回っているもの

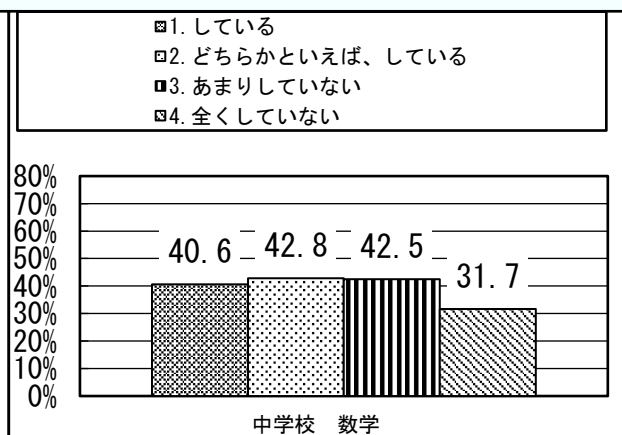
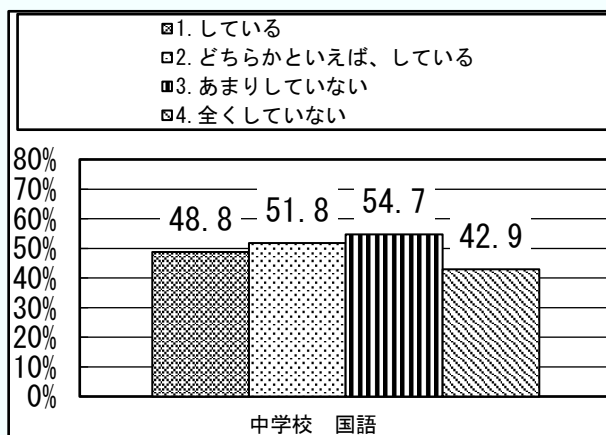
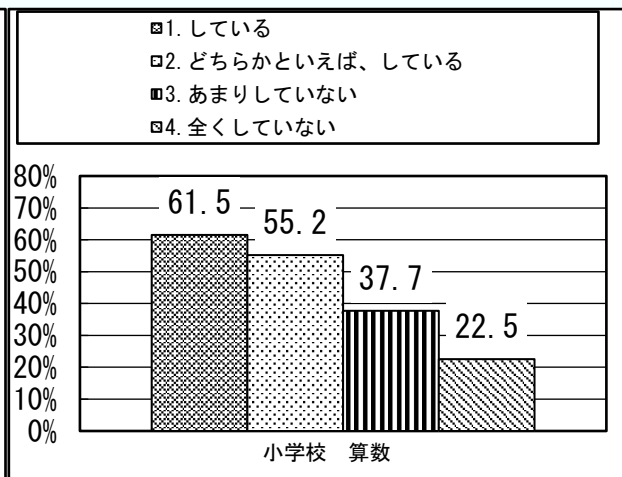
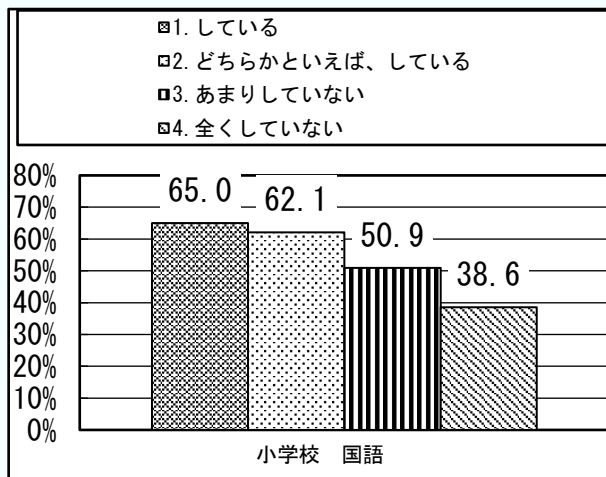
【クロス集計】

*いくつかの質問事項を抜粋し、正答率との関係を表すグラフを記載しています。

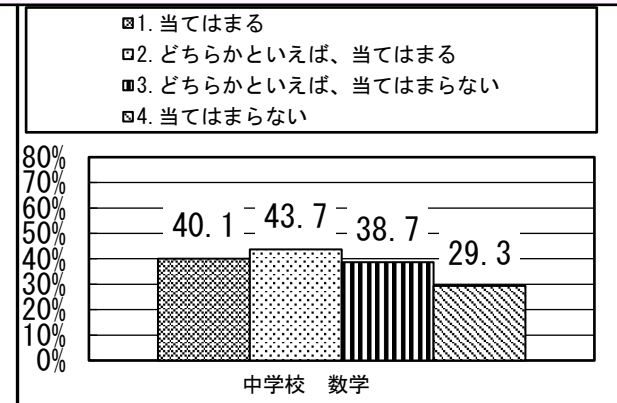
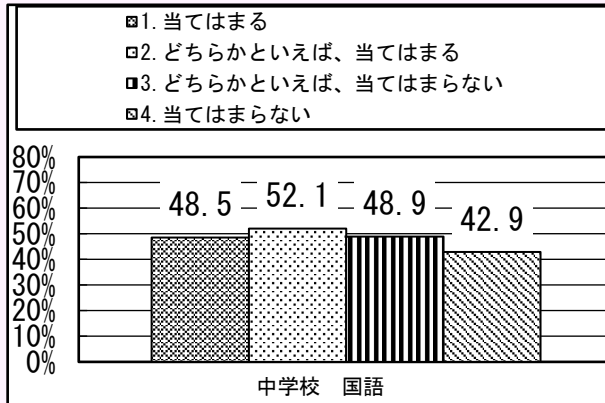
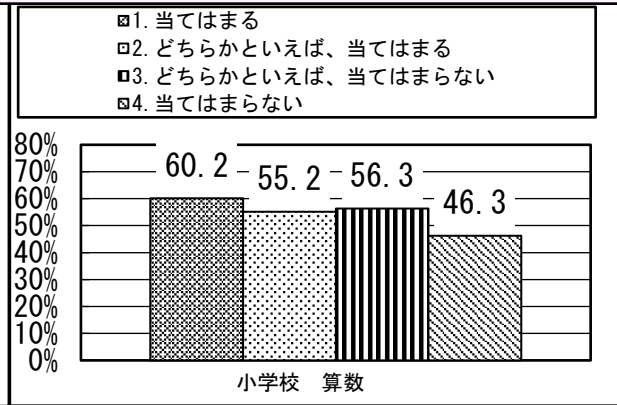
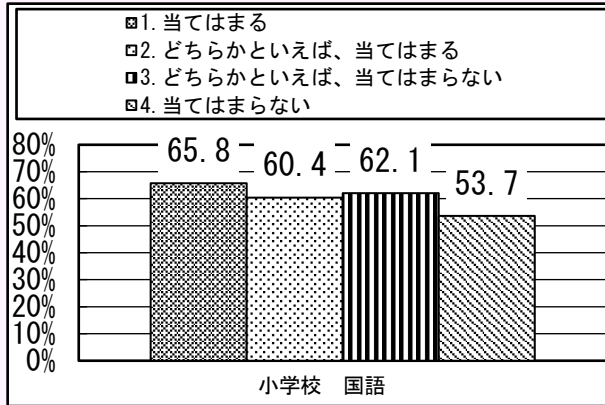
○朝食を毎日食べていますか



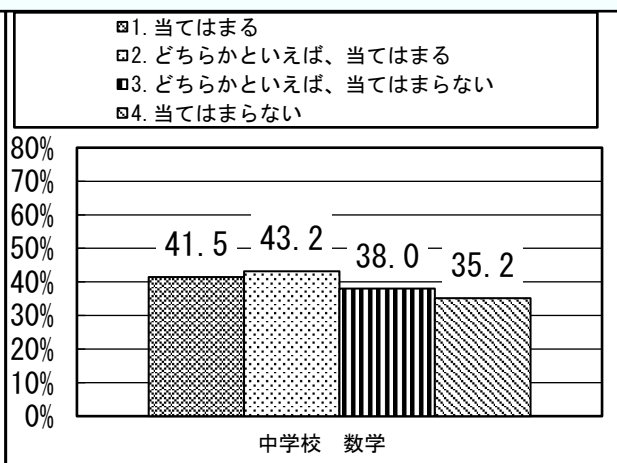
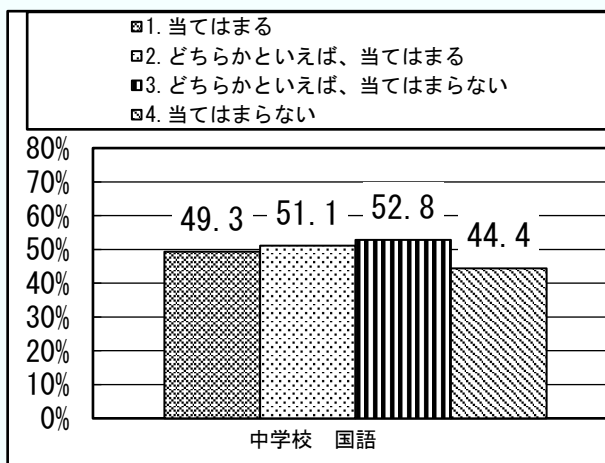
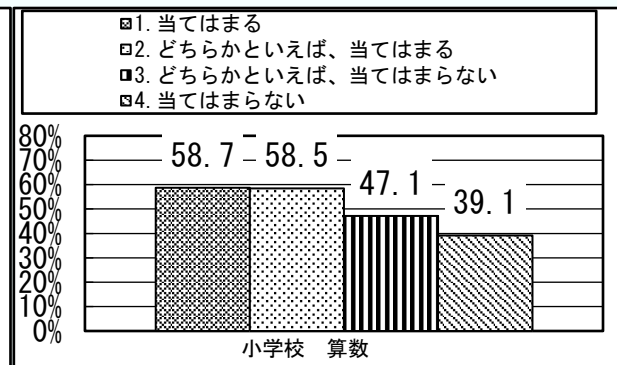
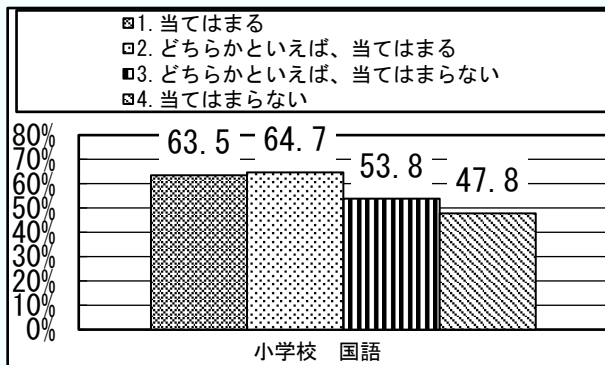
○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



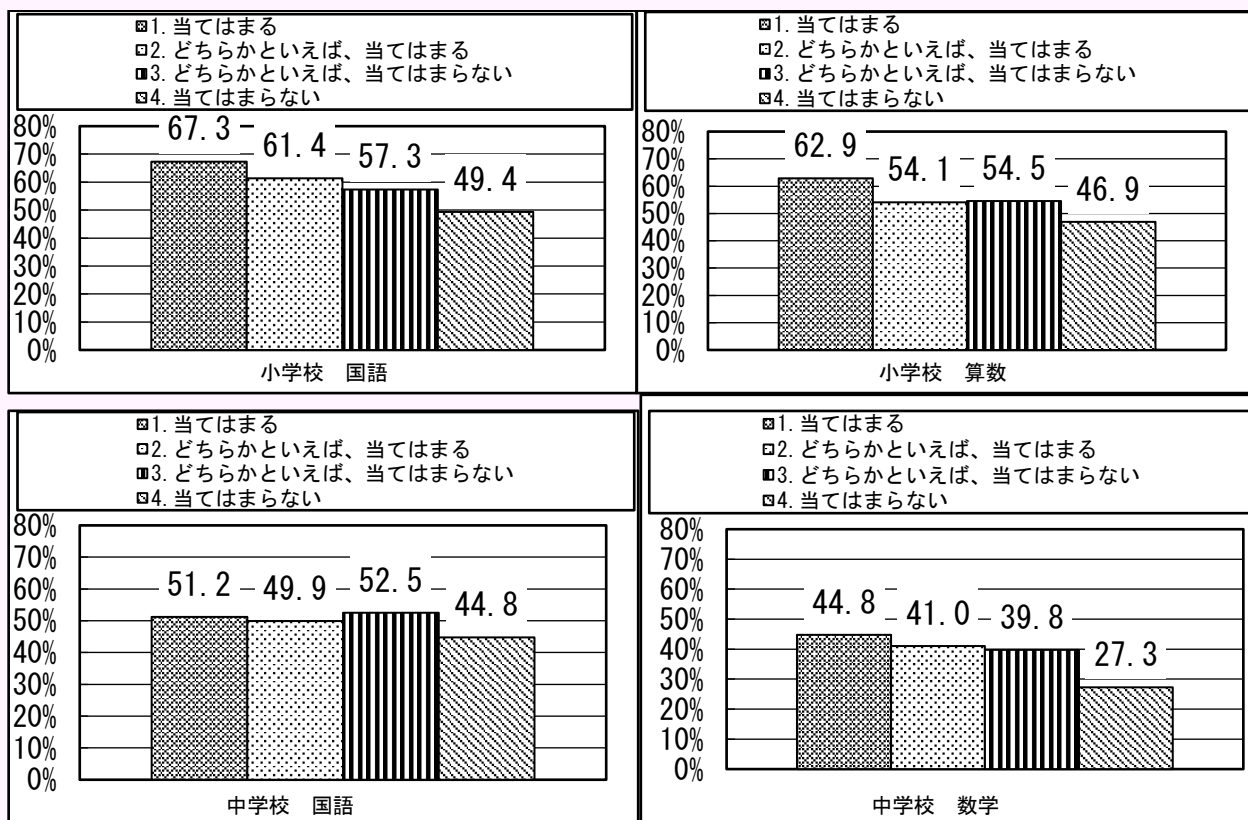
○自分には、よいところがあると思いますか



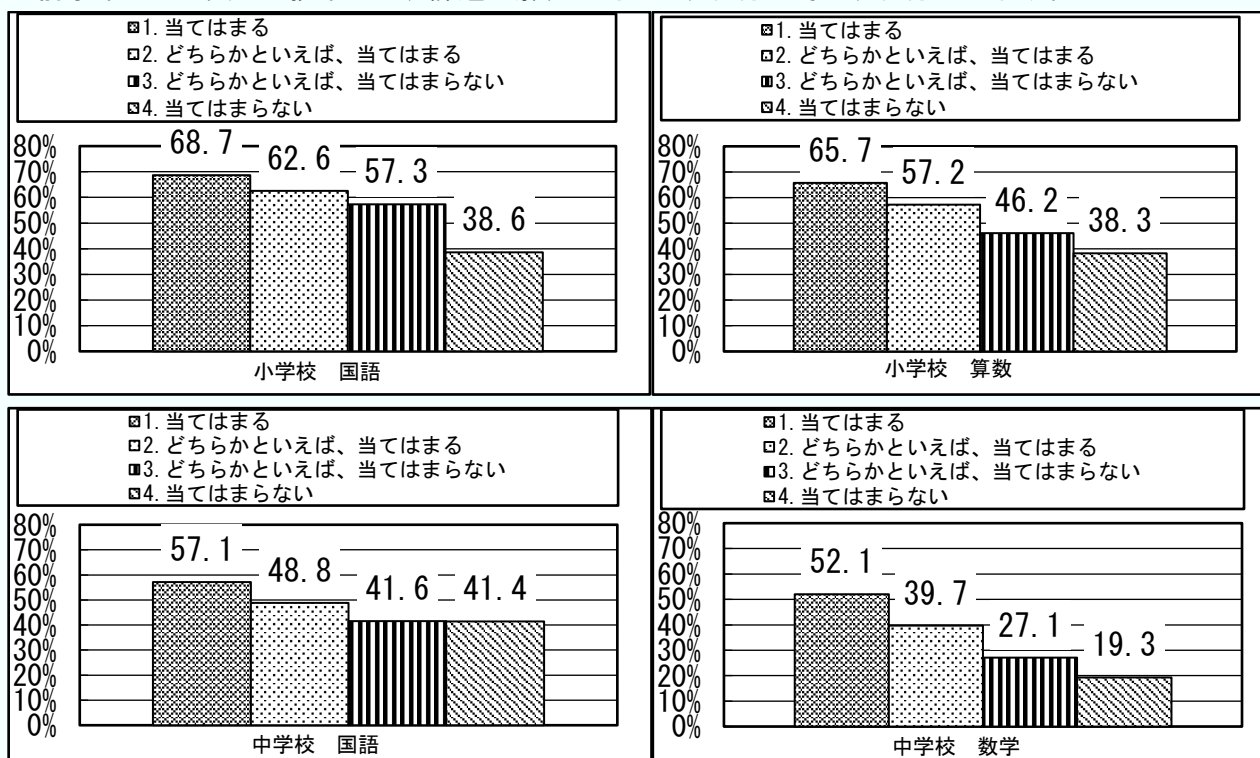
○学校に行くのは楽しいと思いますか



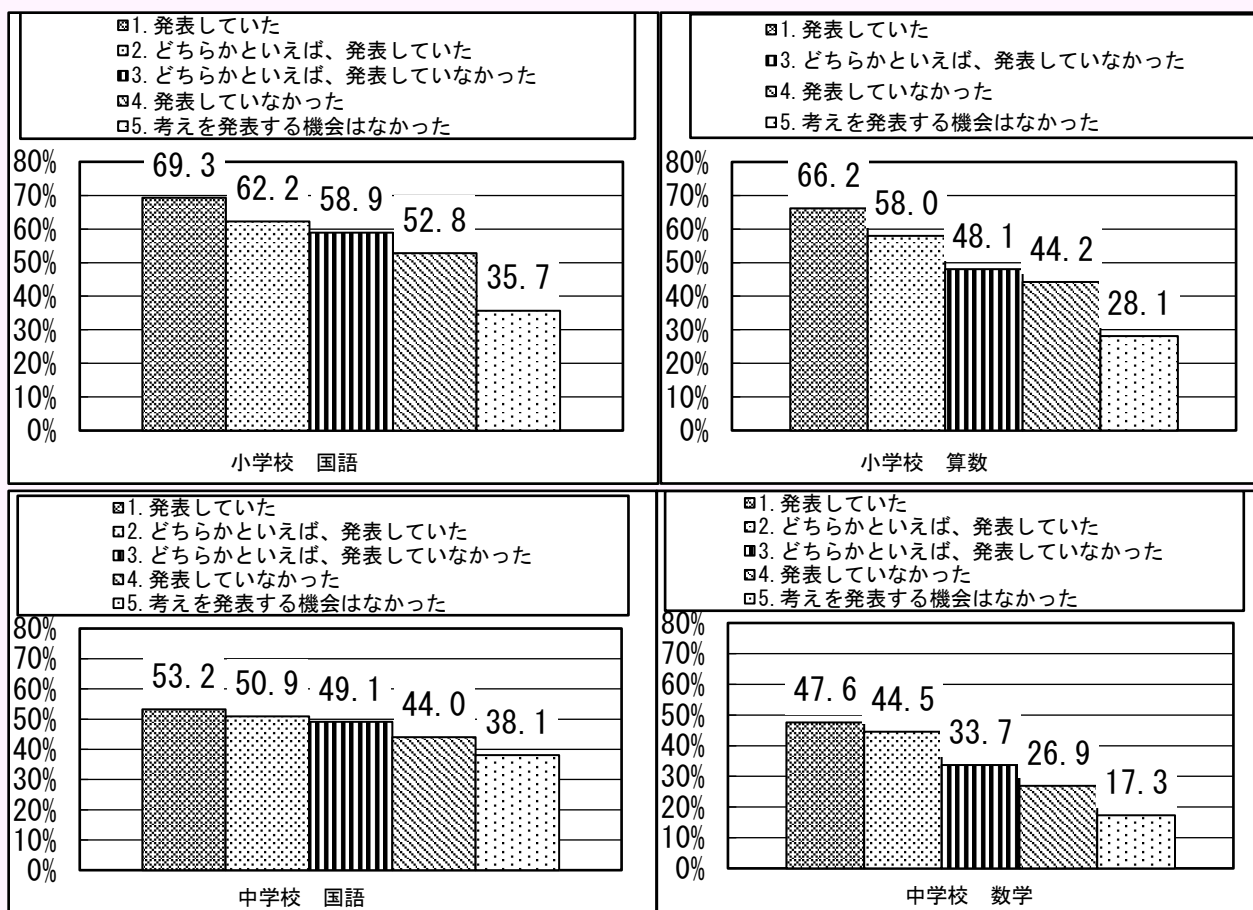
○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして
解決方法を決めていますか



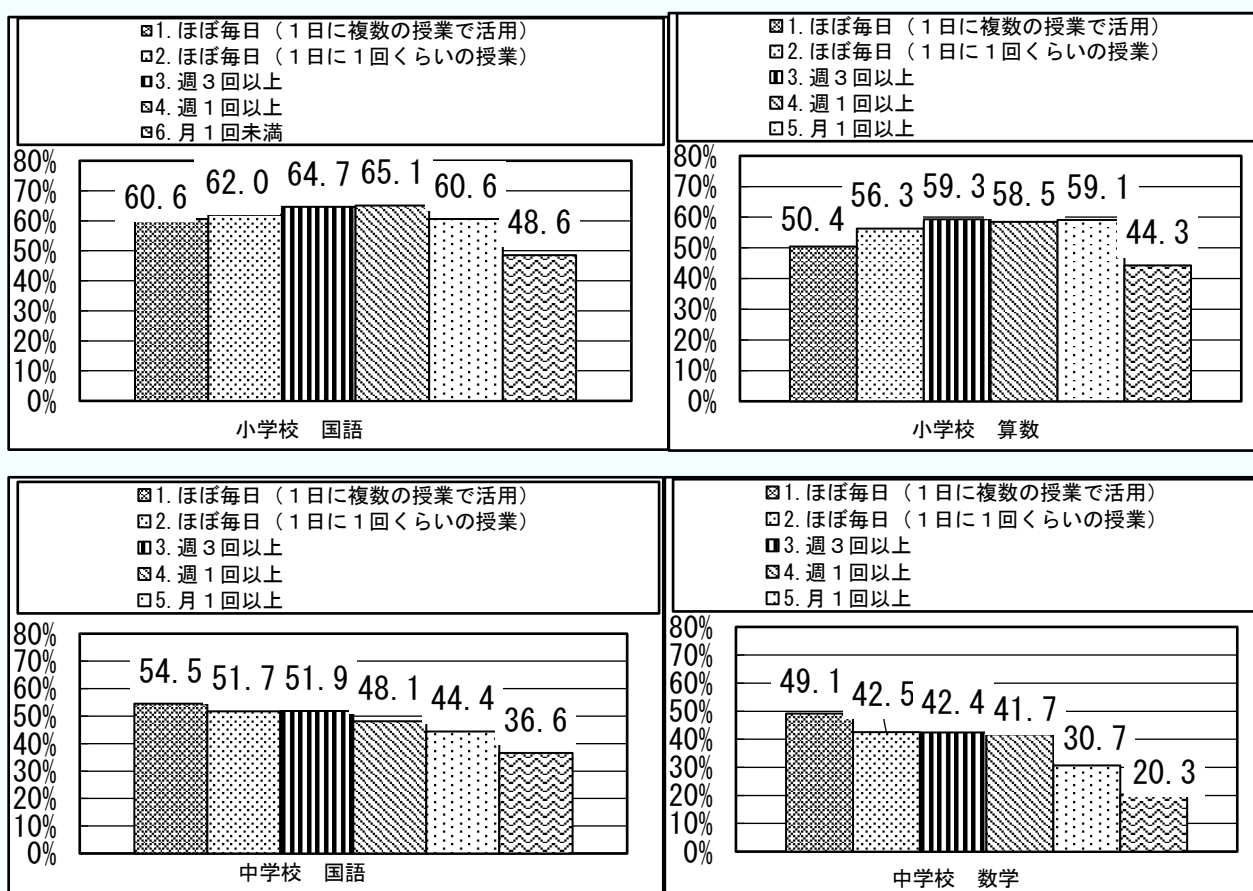
○前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



○授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどをくふうして発表していましたか



○授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか



◆同一集団の3年後の状況

下図では、同一集団の比較として、R4の小学6年生とR7の中学3年生を比較している。

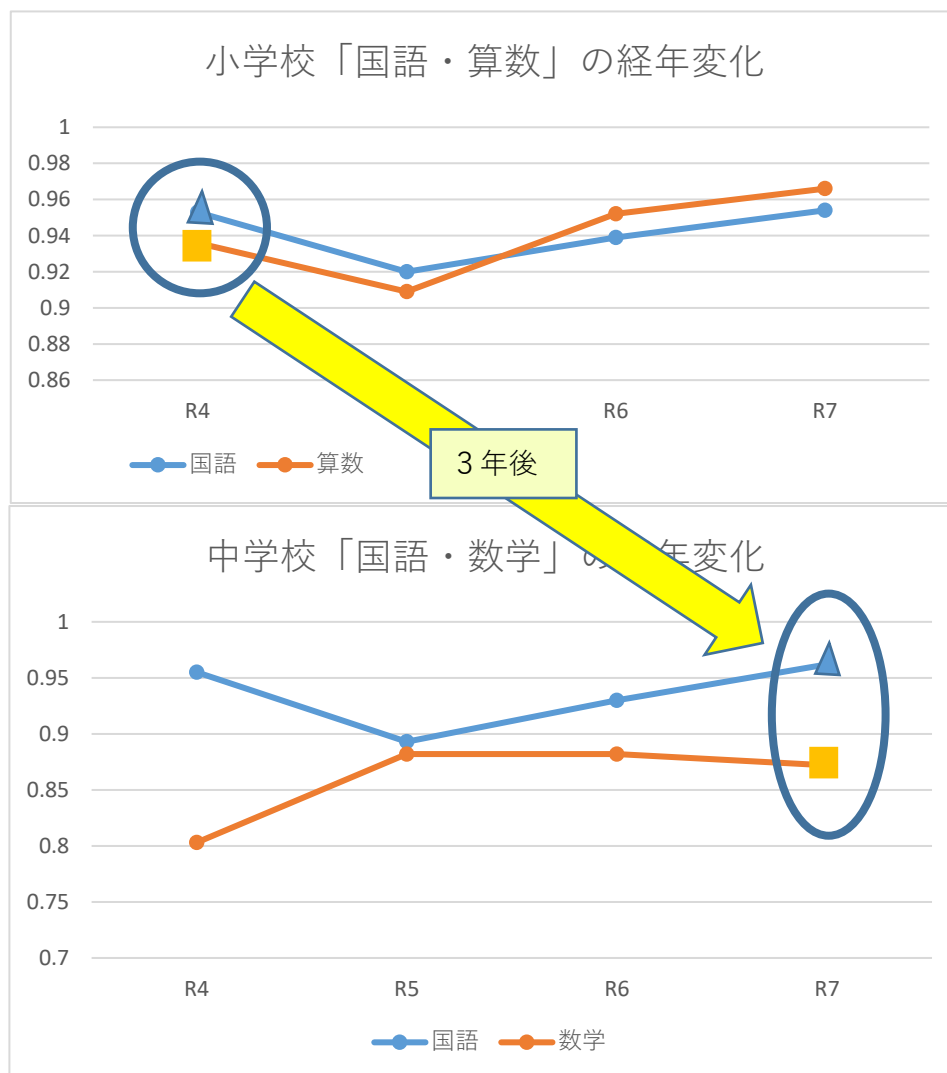
R4小学6年生の国語（青実線）の正答率の対府比が0.953からR7中学3年生で0.962とやや上昇。

R4小学6年生の算数（オレンジ実線）の対府比が0.936からR7中学3年生数学で0.872に下降。

【対府比経年の比較】

小学校	R4	R5	R6	R7
国語	0.953	0.92	0.939	0.954
算数	0.936	0.909	0.952	0.966

中学校	R4	R5	R6	R7
国語	0.955	0.893	0.93	0.962
数学	0.803	0.882	0.882	0.872



小学校算数から中学校数学へ学習内容が難しくなる中で、小学校算数の学力定着と子どもたちの実態を踏まえた学習支援とわかる授業への授業改善が必要であると考え。